

くまもと文学・歴史館長

服部英雄先生

【経歴】

1949年、名古屋市生まれ。
東京大学文学部国史学科卒業、東京大学文学部
助手、文化庁文化財調査官、九州大学大学院比
較社会文化研究院教授、九州大学名誉教授を
経て、2016年4月くまもと文学・歴史館長に
就任。



【委員等】

熊本県震災ミュージアム有識者会議委員（2017）
阿蘇世界遺産学術会議委員長（2018～）
文化庁歴史の道百選選定委員（2018～）など

【著書】

『歴史を読み解く・さまざまな史料と視角』青史出版・2003、
『武士と荘園支配』（山川日本史リブレット 2004年）、
『峠の歴史学 古道をたずねて』（朝日選書 830、2007年）
『河原ノ者・非人・秀吉』（山川出版社 2012）第66回毎日出版文化賞受賞
『四千人が二千の村で聞き取った四万の地名、しこ名』（花書院、2014）。
『蒙古襲来と神風』（中公新書 2017）など多数

服部先生は、文化庁の調査官として全国で史跡の指定・管理・整備等に尽力され、また世界遺産登録等にも関係され、長崎・天草のキリシタン関係遺産等でも大きな役割を果たされました。

県内でも、八代の松濱軒や八代城北の丸の庭園、隈部館等の整備等にも関係されておられます。

今回は1636年（寛永13）に作庭された水前寺成趣園がたどった変遷をお話していただきます。また今回伐採活動をした旧砂取邸庭園（1874年（明治7）作庭）にも触れていただけるのではないかと思います。